

多言語多文化共生を目指した日本語教育実習 子どもクラス実習生の教師の役割認識の変容

高梨 宏子

学位取得年月：平成 21 年 3 月

取得学位名：人文科学修士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】共生日本語教育、日本語教師観の変容、PAC 分析

【要旨】

本研究は、共生日本語教育実習生の日本語教師観の変容を明らかにすることを目的とし、PAC 分析による自己分析を行った。その結果、①教師がすべきことは受け身的な役割意識から主体的な役割意識となった。②他者との関わりでは、教師同士の連携・保護者との関係を重視するようになった。③成長の捉え方では、教師にも学習者と同じように成長すると考えるようになった。

その要因として、実習で実習生同士が話し合いながら作り上げていくという「授業の方向性」、同僚教師との協働関係や保護者にも開かれていたという「教室環境」、内省サイクルを生んだ実習での様々な取り組みや本調査によって生まれた「振り返る機会」の 3 点が考えられた。

(たかなし こうこ)

中国日系企業の社内コミュニケーションに関する 一考察

— 中国人社員の「報・連・相」に対する意識や態度の 形成プロセスに焦点を当てて —

張 翌琳

学位取得年月：平成 21 年 3 月

取得学位名：人文科学修士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】「報・連・相」、社内コミュニケーション、中国の日系企業

【要旨】

本研究は中国の日系企業で働く中国人社員が社内コミュニケーション「報・連・相」に対する態度や意識をどのように形成するか、その形成にどのようなことが関与しているかをさぐるために、日系企業で 10 年以上勤めている中国人社員にインタビューを行い、その結果を修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを使って中国人社員の内的視点から分析を行った。分析と考察の結果、中国人社員は、「報・連・相」の対象である日本人上司に対して、強い期待感を持ち、その期待感を上司が満たすか否かという判断により、異なる「報・連・相」の態度や意識の形成プロセスを辿ることになる。この結果から、「報・連・相」の本来的な目的（仕事を円滑に遂行することと、職場の良好な人間関係を築くこと）を達成するために、日本人上司が率先発信し、積極的に自己開示することが必要だという示唆を得られた。

(ちょう いりん)